

## (5) 東海



東海地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す  
(  は上方に変更、  は下方に変更)

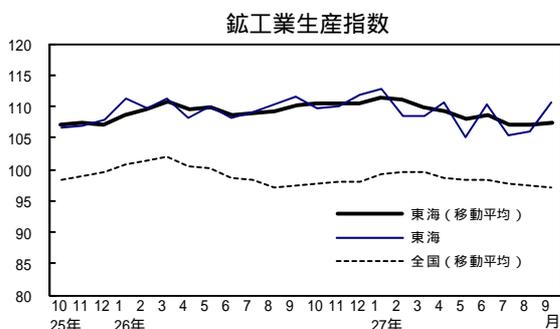
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 8 月)	今回 (平成 27 年 11 月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、輸送機械は、乗用車、自動車部品等で国内向けが減少したことから減少した。はん用・生産用・業務用機械は、生活関連産業用機械等が減少したことから減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン向け液晶等が減少したことから減少した。化学はおおむね横ばいとなった。プラスチック製品は、工業用プラスチック製品で減少したことから減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	36.5	2.0	0.3	4.2	0.9	1.4
はん用・生産用・業務用機械	9.9	1.7	2.3	4.8	1.6	3.2
電子部品・デバイス	9.5	5.6	4.0	5.1	6.2	27.3
化学	6.9	1.2	0.0	2.5	2.6	1.2
プラスチック製品	5.9	0.6	3.1	6.3	1.0	2.0
鉱工業	100.0	1.2	1.2	4.3	0.4	4.6

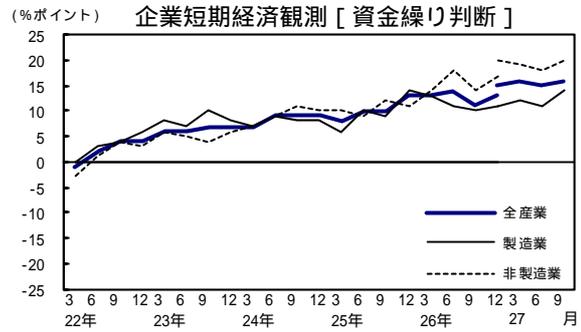
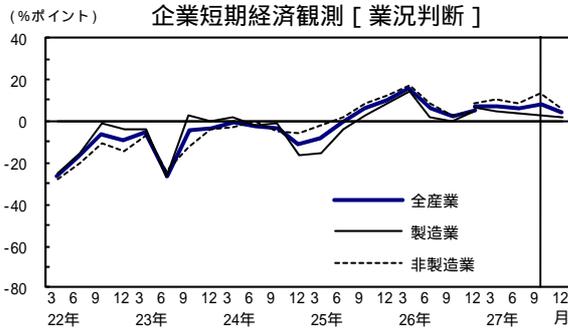
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

2. 全国及び東海の大線は後方3か月移動平均。

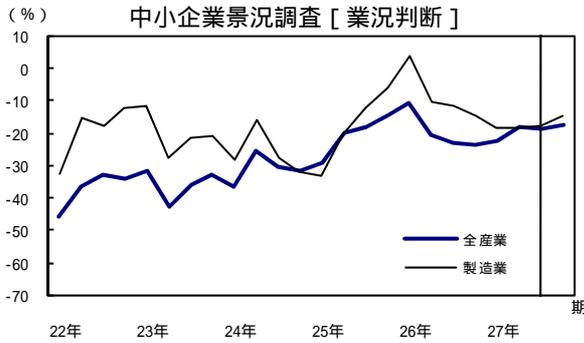
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。  
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記。

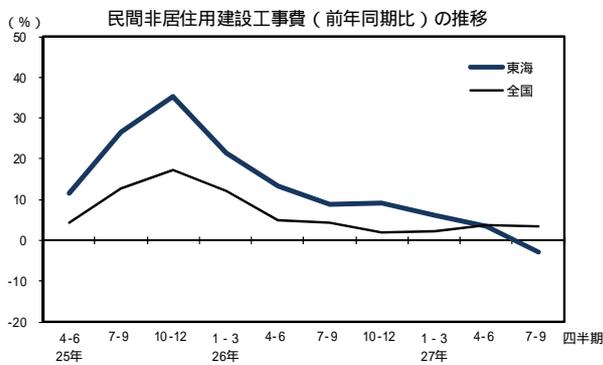


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。  
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「仕事量は少なくないので基本的には状況は悪くなっていないが、受注単価が上がるわけでもなく、収益的には、まだ改善とは言い難い(金属製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度計画
全産業	7.8	18.5
製造業	10.9	18.2
非製造業	4.5	18.8

(備考) 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.2%減、8月は同2.0%増、9月は同0.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額

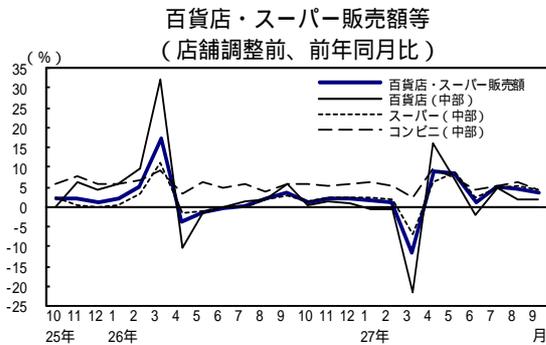
百貨店は、7月は、高額商品に動きがみられことに加え、夏のセールの後ろ倒しの影響や気温の上昇により夏物衣料品に動きがみられたことから、前年を上回った。8月は、高額商品に動きがみられたことに加え、気温の影響により季節商品に動きがみられたことから、前年を上回った。9月は、台風や天候不順の影響がみられたものの、高額商品に動きがみられたことに加え、大型連休の影響から前年を上回った。

スーパーは、台風や天候不順の影響がみられたものの、生鮮食品の相場高もあり飲料食品が堅調であったことに加え、大型連休の影響から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、48.8となり前月より4.1ポイント上昇した。

「秋の行楽シーズンのピークであるとともに、インバウンドが増え続けており、シティホテル中心に満室日が続いている。貸切りバスの需要も非常に多く、予約できない日が多数ある。このような状況で料金が予算を上回っても申込み客があるので、懐事情は良好と感じる(旅行代理店)」など「やや良くなっている」とする回答が増加した。



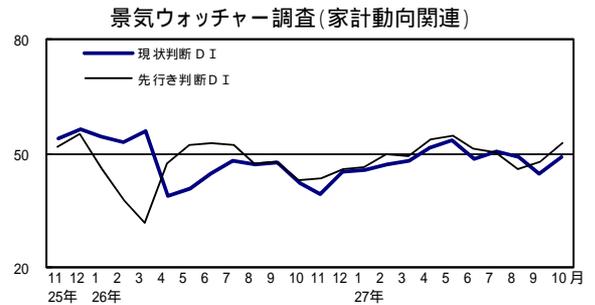
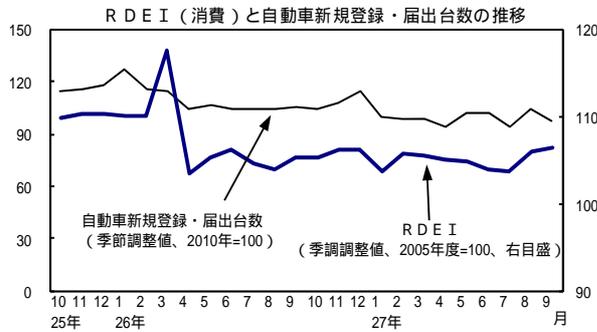
	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.7	0.2	2.0	0.4
百貨店・スーパー(*2)	4.5	5.1	4.6	3.7
百貨店(*2)	3.0	5.0	1.9	1.7
スーパー(*2)	4.8	4.7	5.2	4.4
コンビニ(*2)	5.2	5.1	6.1	4.4
乗用車(*3)	7.2	10.9	0.1	8.4
(季節調整値)(*3)	1.0	8.0	10.5	6.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー、コンビニは、中部

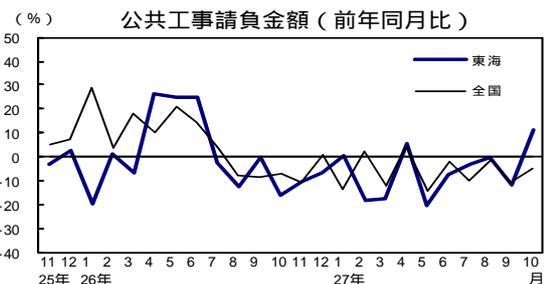
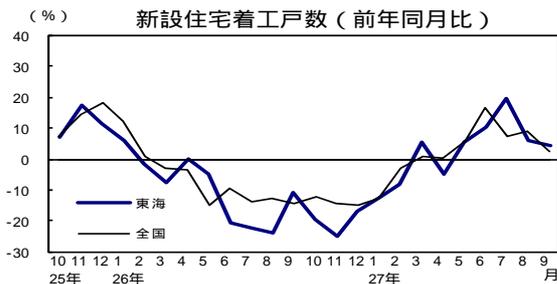
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

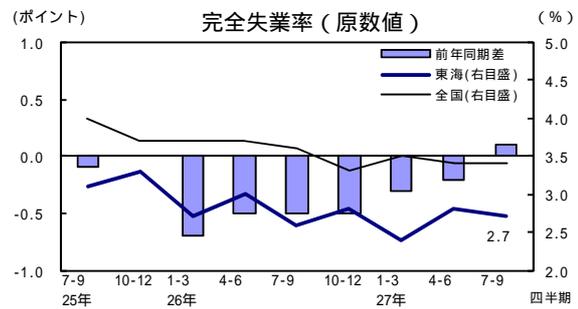
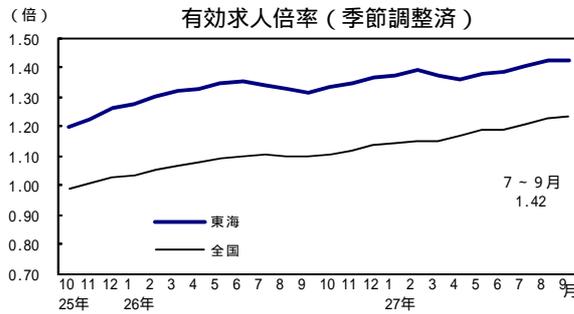


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

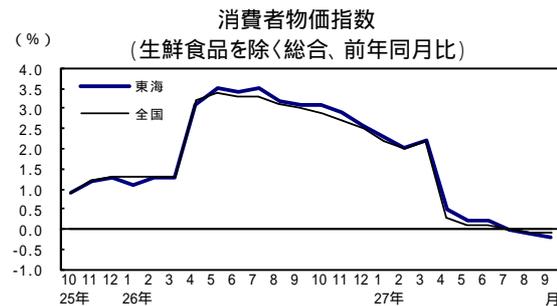
「自動車メーカーによって差異はあるが、新型車種の発売を控えているメーカーでは、採用者数を確保する動きがある (アウトソーシング企業)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額はおおむね横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	273	249	284	251	82
(前年比)	20.6	21.2	8.1	7.0	19.6
負債総額	384	716	501	487	93
(前年比)	39.4	57.2	19.3	1.2	19.0



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・好天に恵まれたことや伊勢志摩サミットを前に興味を持った旅行者等の増加等による、プラスの効果がみられる (一般小売店 [土産])

<先行き>

・12月に新型車種が発売となり、店頭の盛り上がりを期待している。客の動きが市場を盛り上げ、営業マンの動きも良くなって、客の購買意欲の更なる喚起を期待している (乗用車販売店)

景気ウォッチャー調査  
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

